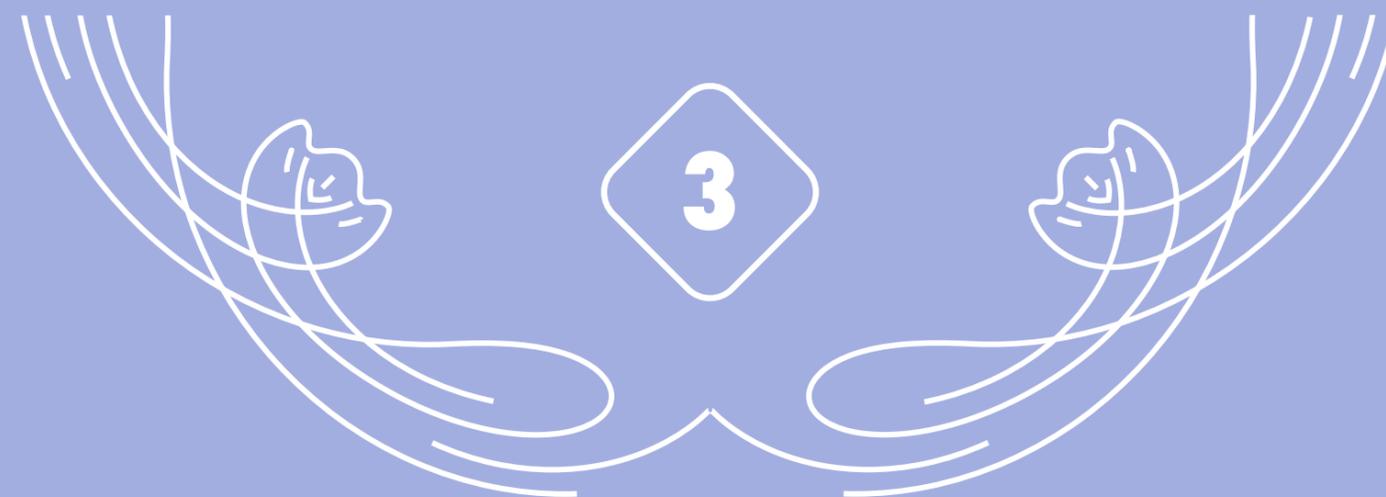




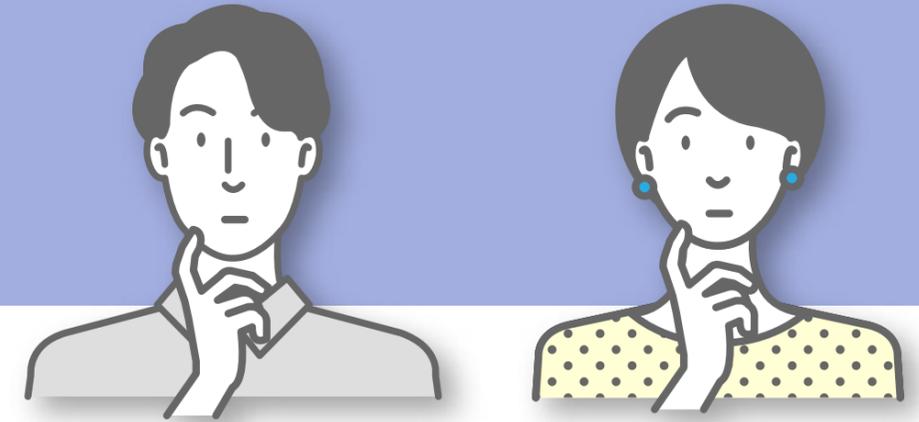
マイレボTALK

MY HUMAN REVOLUTION



第5巻 「獅子」の章

友達から、学会の支援活動に
関して質問されました。



「忙しい上に社会も大変な中で、
なんでそこまで頑張れるの？」

→公明党発足に至る山本伸一の思索に迫りながら
一緒に考えていきましょう！

「獅子」の章の舞台 1962年

- 勝利の年。夏には、参議院議員選挙があり、学会として9人の候補者を推薦することが内定
- 同年1月、学会員の参議院議員が記者会見し、政治団体「公明政治連盟」の発足を発表

当時の政治は……

保守政党

大企業を擁護

革新政党

組織労働者の
ための政策に傾斜

多くの政治家は自分たちを選挙で支援してくれた団体などが、有利になるような法案や政策を推進し、便宜を図ることしか考えていませんでした。

一方、当時の支援者は……

利権などの見返りを期待し、要求

つまり、党利党略に左右されない、真に民衆の生活の向上と平和に寄与する政治ではありませんでした。そんな中、学会員の議員たちは、次第に、独自の政治団体をつくらなければならないと、山本伸一に意見を述べることもありました。

前年の1961年の春、山本伸一は

学会員の議員の代表と懇談しました。

「新たに政治団体をつくるということについては、私も賛成です。(中略) 私は広宣流布の未来を展望し、そうするべきではないかと考えました」

(308 ページ)

伸一の考えてきた宗教と政治のあり方

宗教も、政治も、民衆の幸福の実現という根本目的は同じである。しかし、**宗教が大地**であるならば、**政治はその土壌の上に繁茂する樹木**の関係にあり、両者は次元も異なるし、そのための取り組み方も異なる。 (303 ページ)



例：核兵器の問題について

宗教としての

学会の立場

核兵器は、人類の生存の権利を脅かすものであり、絶対に廃絶しなければならないという思想を、一人ひとりの心に培っていく

政治の立場

さまざまな利害が絡み合う国際政治のなかで、核兵器の廃絶に向かい、具体的に削減交渉などを重ね、協調、合意できる点を見いだす



しかし、伸一は政党を

つくることに対して危惧もしていました。

少なくとも支援団体としての学会の負担は大きくなる。また、それによって、学会までも政争に巻き込まれ、既存の政党から、さらに激しい攻撃にさらされるであろうことは目に見えていた。

(311 ページ)



それでも伸一は決意します。

政治を民衆の手に取り戻し、人びとの幸福に真に寄与するものにするためには、あえて、その怒濤に向かって、突き進んでいくしかない。

(336 ページ)

「政治の善し悪しは、ただ政治家だけによって決まるものではない。政治家を支援し、投票する人びとの意識、要望が、政治家を動かし、政治を決定づける大きな要因となっていくものである。(中略) 学会は、その民衆を目覚めさせ、聡明にし、社会の行く手を見すえる眼を開かせてきたのである」 (313 ページ)

ディスカッションテーマ

自分の言葉で支援の意義を
語ってみよう！